

「釜石市と遠野市による災害時における施設等の利用に関する協定」締結式

9月1日

水害時、自治体連携で遠野運動公園を釜石市民の避難場所に



協定を結び、グータッチを交わす本田市長と野田釜石市長

下図_協定のイメージ



本市と釜石市は、水害時に遠野運動公園を釜石市民の車中避難場所とする協定を締結しました。大雨洪水により釜石市で避難情報が発令された場合に運用。運動公園駐車場の一部とトイレ2カ所を開放します。対象は▷甲子川▷鶏住居川▷小川川——の水位周知河川流域の中妻・小佐野・甲子地区に住む住民で、車中避難できる人が必要物品を持参し自家用車で避難します。県が公表した想定最大規模の大雨洪水が発生した場合、同地区は可住地の多くが浸水。約1万3千世帯・2万6千人の避難が必要です。一方、避難場所・収容人数ともに大幅に不足。両市の地理的条件を生かし、避難先の確保と防災対策充実を図ります。

同日は市総合防災センターで締結式が開かれ、両市関係者ら約30人が参加。県内初となる自治体間の協定を取り交わり、新たな絆をつむぎました。野田武則釜石市長は、「大雨洪水から市民の命を守るため、避難場所や経路の見直しが必要な状況にある。遠野市の厚意に感謝したい」とあいさつ。本田市長は「両市には昔からの絆がある。地域の特性を生かし、足らざるところを補い、連携して役割を果たすことが重要」と力を込めました。協定の期間は、9月1日から来年4月1日。年度ごとに延長できます。



本田市長と菊池組合長(左)/発売18年目・2021ラベル

「一番搾り とれたてホップ生ビール」仕込式

9月21日

醸造開始オンラインで期待込め

とれたてホップ生ビールの仕込式は、仙台市の麒麟ビール(株)仙台工場で行われました。本田市長と菊池一勇遠野ホップ農業協同組合代表理事組合長がオンラインで参加。遠野産生ホップのみずみずしさが醍醐味の同ビール醸造開始に菊池組合長は「農家が丹精込めた良質のホップを届けた。ファンの皆さんに楽しんでほしい」と期待を込めました。生ビールは、11月2日(火)から全国で発売されます。

8月21日 JR釜石線SL銀河運行再開

SL銀河をお出迎え

JR東日本が運行するSL銀河が約1年ぶりに運転を再開しました。再開初日、宮守駅では和太鼓集団和會による演奏が披露され、乗客や訪れた人を楽しませました。和會会長の千田健太郎さん(宮守町宮守)は「コロナ禍で小規模ながらも出迎えてきて良かった。元気と勇気を与えたいと思い演奏しました」と話しました。SL銀河は本年度、12月5日までの毎週土日に花巻―釜石間を運行する予定です。



力強い演奏でSL銀河を出迎える和會の皆さん

8月30日 第23回「わたしの主張遠野地区大会」

中学生が力強く思いを主張

同大会は市民センター大ホールで開かれ、市内中学生8人が社会への意見や日常生活で感じたことなどを発表しました。最優秀賞は、「救える命は必ずあるから」と題して動物の殺処分問題について発表した藤原真結さん(遠野西中3)。譲渡会や寄付など動物の命を救う活動を紹介し、「命には覚悟を持って向き合うことが大切。不幸な命をなくすために何か行動を起こしませんか」と訴えました。



飼猫は大切な家族の一員と話す藤原さん

9月2日 防災備蓄用品配布式

防災備品を市内小中学校に配布

同配布式は遠野中で行われ、三松丈宏消防長から同校の小向敏夫校長に防災備蓄用品として生理用品が手渡されました。同物品は、防災備蓄用品充実を目的に、災害時の市指定避難所である市内全小中学校に16枚2セットずつ配布されました。小向校長は、「後回しになりがちな避難所への配布に目を向けていただきありがたい。大切に有効利用していきたい」と思いを話しました。



三松消防長(左)から防災備蓄用品を受け取る小向校長

教えて! SDGs ゴール11. 住み続けられるまちづくりを



1_平成31年3月に開通した東北自動車道釜石秋田線 2_地域住民の手で鳥居を更新しました

ゴール11では、安全安心な生活環境の整備と人口集中・人口減少などの課題解消、文化・自然遺産の適切な保護などを目指します。地域活動に積極的に参加したり、まちの良いところや不便なところを考えたりすることが大切です。本市では▷公園や住宅・宅地の整備▷計画的な道路整備▷国や県への整備要望▷安全な水の安定供給——などに取り組んでいます。

令和3年度岩手県幼年婦人防火委員会会長表彰 地域に根差した火災予防啓発を實踐 神明保育園幼年消防クラブ

火災予防意識の啓発に大きく貢献し、同消防クラブが表彰されました。同表彰は、他の模範となる活動を長年続けたクラブをたたえるものです。神明保育園園児は、定期的な総合避難訓練の中で安全に避難することを学び、

訓練後は防火パレードを実施して、地域住民に火の用心を呼びかけています。米内優子園長は「表彰は地域の人たちの温かい支援のおかげ。今後も皆さんと手を取り合って防火意識を高めたい」と活動への思いを語りました。



神明保育園園長 米内優子さん